

# 「農家・農地調査」選択式回答集計結果（舞鶴市全体版）

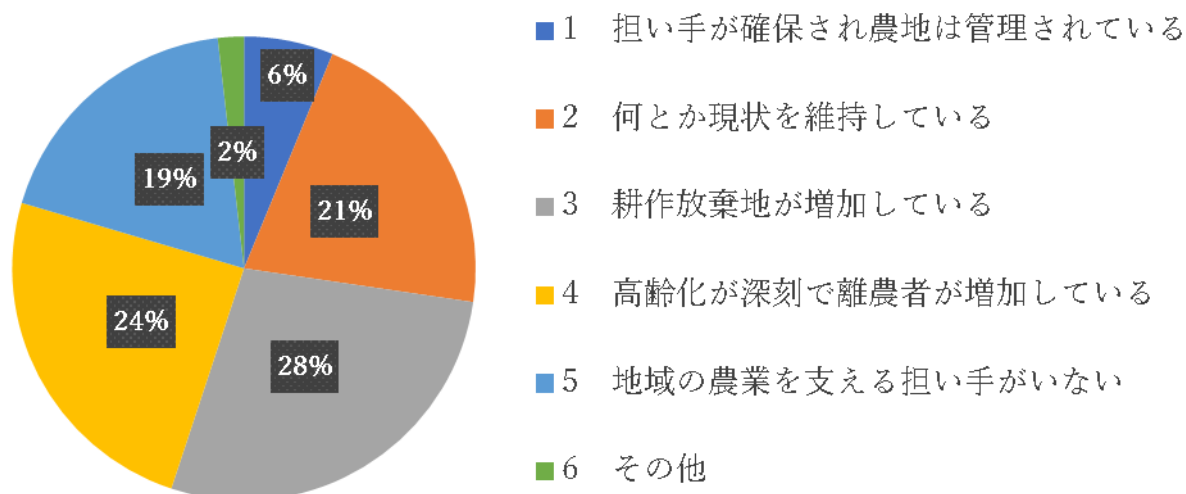
舞鶴市全体における集計結果を下記のとおりまとめます。

なお、今回の調査結果では、舞鶴市全体集計と地域ブロック別集計（大浦・東舞鶴・西舞鶴・加佐）を比較したところ、特徴的な偏在性は見受けられず、どの地域においても同様の地域課題を抱えている結果となりました。

## 【集計結果】

### 1-1 集落の農業・農地は、現在どのような状況ですか。

（複数回答可）



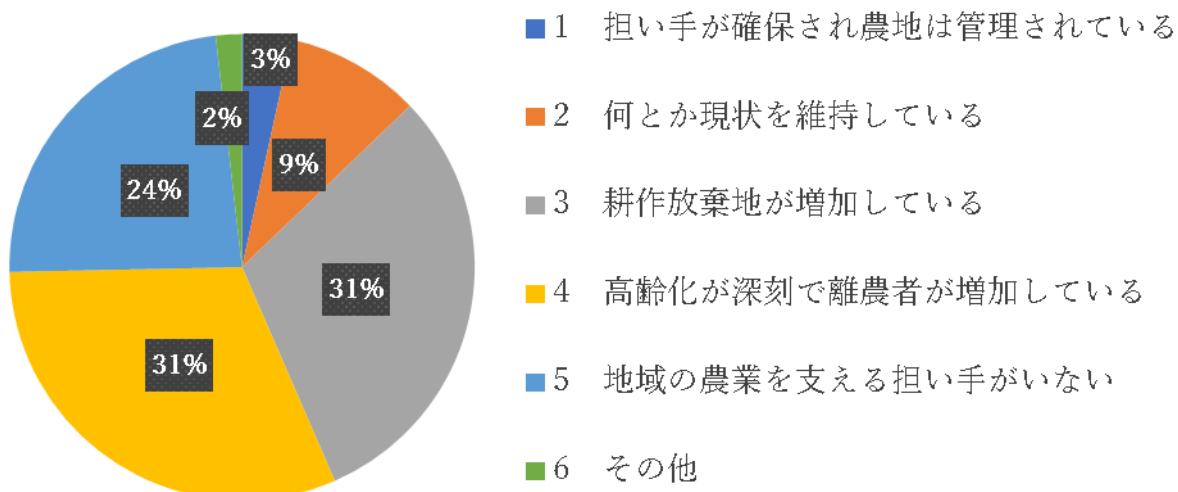
集落の農業・地域の現状は、「1 担い手が確保され農地は管理されている」が全体の6%に対して、「5 地域の農業を支える担い手がない」が約2割（19%）と3倍以上となっており、担い手不足を課題とされている傾向が顕著であります。

また、「3 耕作放棄地が増加している」・「4 高齢化が深刻で離農者が増加している」が全体の約5割（合計52%）と、すでに耕作されていない農地が増えているとともに離農者の増加傾向が大きく占め、舞鶴市全体の実態を表しています。

今後、「2 何とか現状を維持している」と回答された方も2割を超えていることから、この点のフォローアップも重要と考えます。

1-2 集落の農業・農地は、5～10年後、どうなっていると思いますか。

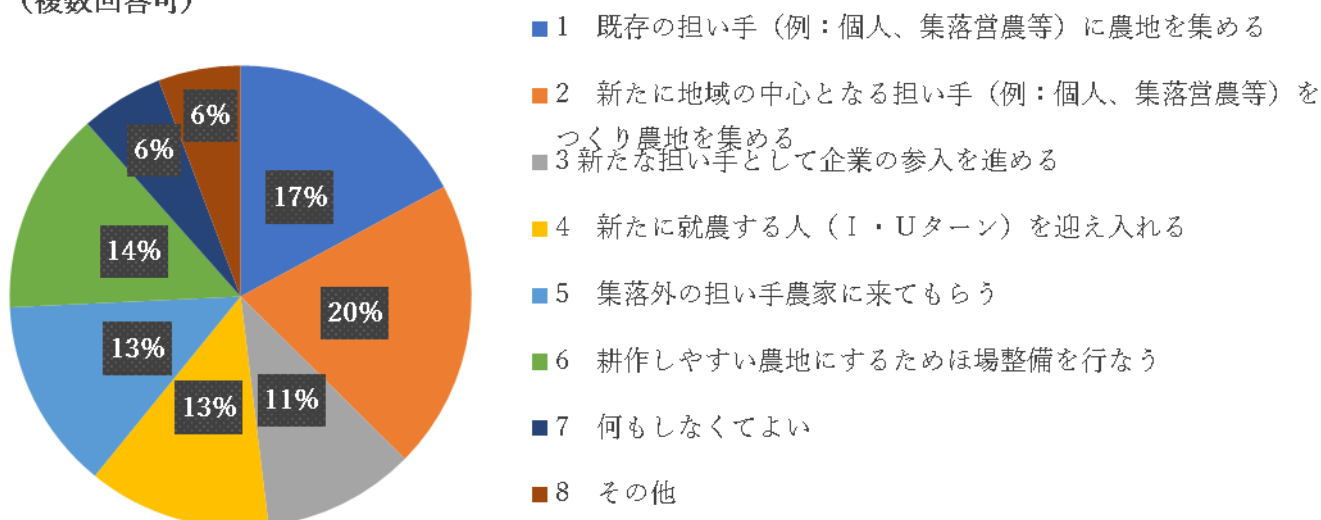
(複数回答可)



将来（5～10年後）の展望は、今後も耕作放棄地や離農者の増加がより一層進むことが懸念される一方で、地域の農業を支える担い手農家がないことが課題としてあり、将来の農地を維持・管理される見込みの「1 担い手が確保され農地は管理されている」・「2 何とか現状を維持している」が全体の2割（12%）にも満たず、厳しい状況が加速していくことを認識されています。

1-3 集落の農業を守っていくために、今後どうしたらよいと思いますか。

(複数回答可)

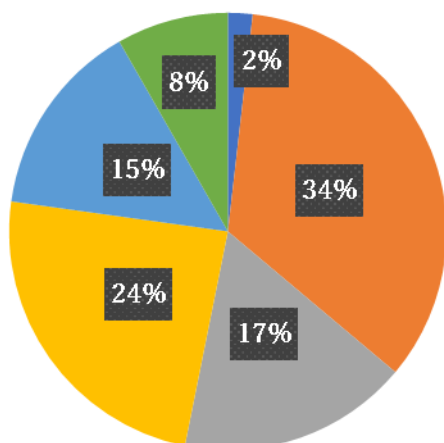


集落の農業を守っていくために、「6 耕作しやすい農地にするためほ場整備を行なう」が全体の約1割（14%）と耕作環境を改善するハード整備が求められている一方、「1 既存の担い手に農地を集める」・「2 新たに地域の中心となる担い手をつくり農地を集める」が全体の約4割（37%）と、担い手農家への農地集積化といったソフト対策がより多く求められています。

担い手の確保については、集落内における既存の個人・集落営農等に留まらず、集落外の担い手農家との連携や、そして企業や就農希望者（I・Uターン者）といった多様な人材を活用した担い手の確保にも取り組むべき必要性が認識されています。

## 2-1 あなた自身の農業を今後（5～10年後）どのようにしたいですか。

（近いもの1つ選ぶ）

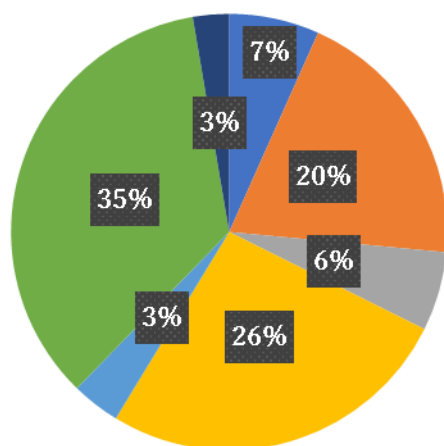


- 1 農地の受け手となり規模を拡大したい
- 2 現在の規模を維持したい
- 3 規模を縮小したい
- 4 近い将来、農業をやめたい
- 5 既に農地を貸しており今後も農業は行わない
- 6 その他

所有農地の今後（5～10年後）の利用意向では、「1 農地の受け手となり規模を拡大したい」が全体の2%に対して、「3 規模を縮小したい」・「4 近い将来、農業をやめたい」が全体の約4割（41%）と受け皿がなく、新たな担い手の確保が求められます。

## 2-2 あなたに農業の後継者はいますか。

（近いもの1つ選ぶ）



- 1 同居している後継者がおり、農業をやっている（後継の意思あり）
- 2 同居している後継者はいるが、後継の意思は未確認
- 3 現在は一緒に住んでいないが、農業を引き継いでくれる（後継の意思あり）
- 4 現在は一緒に住んでおらず、後継の意思は未確認
- 5 家族・親戚以外の個人・法人・集落営農等に耕作してもらうメドがある
- 6 後継者がおらず、メドも立っていない
- 7 その他

後継者の有無については、「1 同居している後継者がおり、農業をやっている（後継の意思あり）」・「3 現在は一緒に住んでいないが、農業を引き継いでくれる（後継の意思あり）」・「5 家族・親戚以外の個人・法人・集落営農等に耕作してもらうメドがある」が全体の2割（16%）未満に対して、「6 後継者がおらず、メドも立っていない」が全体の約4割（35%）と後継者が見込まれていない状況が顕著であります。

なお、その他の「2 同居している後継者はいるが、後継の意思は未確認」・「4 現在は一緒に住んでおらず、後継の意思は未確認」の回答を含めると、全体の約8割（81%）を超えており、将来の行く末が見えないことが示されています。

## 【まとめ】

全体を通して、地域農業を支える担い手はすでに不足しているとともに、後継者のメドが立たず耕作意向の不明な農家世帯が多く、今後も高齢化による離農者の増加により、農業の衰退が加速度的に進むことが予想されています。

このような中、農業・農村集落の維持を図っていくためには、担い手農家への農地の集積・集約化及び多様な人材を活用した担い手の確保が求められています。

農業が直面する厳しい環境の中で、農業を将来に引き継いでいくためには、その中心となる「人」と「農地」の問題に向き合う必要があることから、「人・農地プラン」（京都府では「京力農場プラン」と呼びます。）の策定を進め、これからの地域農業のあり方（地域の未来設計図）を考えるきっかけにつなげていく必要があります。